

1 学校経営理念

大寄小学校区に児童がいる。この児童たちに学力と体力と社会性を身につけるさせる場として大寄小学校がある。私たちは、教育公務員として、まずこの地域の児童のために教育活動を推進することが、職責であると認識しなければならない。

児童一人一人の背後には保護者・家族がいる。学校の背後には地域がある。そして学校には伝統と歴史がある。この三つを踏まえて、保護者・家族の願い、地域の期待に応え、学校の伝統を継承しながら教育活動を進めることが大事である。

2 学校教育目標

○よく考える子 ○思いやりのある子 ○がんばりぬく子

3 めざす学校像

夢をはぐくみ お互いを支え合う 笑顔があふれる大寄小

- | | |
|---------------------------------------|-------|
| ・真剣に学ぶ姿が溢れ、 明るい挨拶と笑顔が飛び交う学校 | 【児童】 |
| ・人間性を高め、感性豊かで 熱い情熱をもった教職員のいる学校 | 【教職員】 |
| ・花と緑に溢れ、安全清潔で 美しい学校 | 【環境】 |

4 めざす児童像

- ・夢、目標をもち、意欲的に学習する児童
- ・自分自身を高めていける児童
- ・友だちを大切にする児童
- ・礼儀正しく、美しさに感動できる児童
- ・元気に遊び、体を鍛える児童

5 めざす教師像

- ・児童、保護者、地域、同僚から信頼される教師
- ・愛情をもって児童と接する教師
- ・授業を大切にし、児童に学力をつけられる教師
- ・研修・研究で意見を出し合い、互いに資質を高めあえる教師
- ・同僚の動きを察知し、協働する教師

6 経営方針

「信頼」「感謝」「感動」

- 児童に夢をはぐくみ、笑顔あふれる大寄小学校を築くことを目標とし、全教職員の共通理解と一貫した指導体制を確立し、教職員の英知を結集して、活力ある学校経営に努める。
- 教育目標の具現化を目指し、知、徳、体の調和のとれた人間性豊かな明るい児童の育成に努める。
- 学校、家庭、地域の連携を図り、開かれた学校づくりに努め、小規模校の特色

を生かした教育の創造に努める。

- (1)教職員の積極的な経営参画で教育目標の達成に努める。
- (2)教育のプロとしての高度な知識・技能を絶えず学び続ける教師とし、一人一人の資質の向上を図る。
- (3)児童の学力向上を図るため、学習指導要領を踏まえ、実践研究を積む。
- (4)児童のよさや可能性を引き出し、一人一人の夢を支援する。
- (5)教育活動を通して、豊かな心の育成と集団活動の楽しさを深める。
- (6)教育環境を整備し、人間形成の場とともに健康、安全に努める。
- (7)家庭・地域との連携を図り、信頼される学校づくりに努める。

7 指導の重点

- 「確かな学力」の定着
- 感動のある学校生活づくり
- 安心安全できれいな学校づくり

8 指導の努力点(教育目標の具現化のために)

【よく考える子】・・・育成のために

(1)確かな学力の定着

- わかる授業の実践に努める。
 - ・発問、板書を工夫する。
 - ・学び方を教える。(ノート指導、姿勢、学習規律の徹底)
 - ・言語力を育てる。(聴き方、発表・発言の仕方、読書の推進)
 - ・学習環境を整える。(教室掲示の仕方、整理整頓、賞賛・見届け)
- 既習事項を生かすなど反復学習を徹底し、基礎基本の確実な定着を図る。
- TTや少人数学習の指導方法の工夫改善を通して学力の向上を図る。
- 体験的な学習を通して、学ぶことの楽しさやおもしろさを味わわせ、学習意欲を高める。
- 学力の定着と個人差に応じた指導を徹底する。
(学校として系統性ある指導、支援学級の弾力的運用、補充学習)
- 家庭と連携した家庭学習の習慣化を進める。(家庭学習のしかた)

(2)総合的な学習の時間の充実

- 体験学習等を通して児童の興味関心を高め、課題解決に向けて自ら学ぶ態度の育成に努める。
- 学校周辺の社会教育施設や公民館や学校応援団等、地域の教育力の積極的な活用を図る。

(3)外国語活動・国際理解教育の推進

- 外国語(英語)活動を通してALTと積極的に関わり、外国語に親しむとともにコミュニケーション能力の素地を養う。

(4)情報教育の充実

- 情報機器(特にコンピュータ)の基本的な操作技能を身につける。
- インターネット等を活用し、自ら調べ、課題を解決していくなどの情報活用能力を養う。

- 情報の正しい取り扱いやマナーを身につけ、情報モラルの向上を図る。
(深谷市立児童生徒インターネット使用のルール、「安心ふっかネット」の徹底)

(5) 図書館の充実

- 読書に親しむ活動を推進し、本との関わりを通して言語能力を高め、豊かな感性の素地を養う。

【思いやりのある子】・・・育成のために

(1) 学級経営の充実

- ・児童理解の徹底に努め、児童のよさ、可能性を見つけ、伸長を図る。
- ・児童を公平に扱うとともに「ほめる」機会を設定し、よく認め、褒める。
- ・「あいさつ」「返事」ができる児童を徹底していく。
- ・温かく心の通う学級活動を実践する。(望ましい集団づくり)
- ・一人一人の児童に目を向け、学級内に孤立する児童がいらないよう目配り、心配りをする。(心の居場所づくり)
- ・いじめは絶対に許さないという強い信念をもち、早期発見、早期解決に努める。

(2) 感動ある学校生活(心の教育の充実)

- 「時を守り、場を清め、礼を尽くす」の実践ができる児童を育てる。
- 感謝の心を育む。(自然と「ありがとう」の言葉ができるようにする)
- 学校応援団や公民館と連携した体験活動の充実を図る。
(勤労生産活動「米作り」、自然体験、社会奉仕活動)
- 主体的な活動を促す特別活動の推進を図る。
(学校行事、児童会活動、委員会活動、縦割り活動)
- 小中連携の充実を進める。
 - ・6校協議会の内容実践、当たり前のことを当たり前にする。
- 豊かな心を育むため、全教育活動を通じて道徳教育の充実発展に努める。

(3) 生徒指導と教育相談の充実

- 児童の居場所のある学校・学級作りを進める。
- 生活習慣の基本的なものとして、あいさつ、返事、整理整頓、言葉使いの指導に力点を置き、徹底する。
- 生徒指導委員会を月1回定期的に開催し、児童の実態を把握し、具体的に対応できるように話し合う。
- 児童、保護者などの教育相談に積極的に応じられる体制を整備する。
- 保護者への対応は「冷静」「傾聴」「早期対応」の意識を常にもつ。
- 問題を一人で抱え込まず、組織で対応する。
(報告・連絡・相談の徹底)

(4) 人権教育の推進

- 一人一人のよさや個性を尊重し、児童が自己存在感のもてる学校、学級経営を推進する。
- 差別に対する不合理さに気づき、差別をしない、させない態度を育成する。

(5) 特別支援教育の推進

- 児童の障害の状態を踏まえ、反復学習を重視するなど一人一人の伸長が図れるようにする。
- 特別支援教育に対する理解と認識を深めるとともに通常学級と特別支援学級の交流を積極的に推進する。
- 特別支援学級での弾力的な運用や就学相談委員会の円滑な特別支援教育の推進に努める。

【がんばりぬく子】・・・育成のために

(1) 生きる力の育成

- 教育活動を通して、何事にもめげず、最後までがんばりぬく児童を育てる。
- がんばることの大切さを理解させ、がんばることのすばらしさを味わうことができる教育活動を推進する。
- 学校での授業だけでなく、家庭での学習習慣を身につけ、向上心あふれる児童を育てる。
- 体験活動を通して、働くことの意義や友だちと協力することの大切さに気づき、豊かな人間性を育む。

(2) 体育・健康教育の推進

- 運動の楽しさや喜びを味わわせるとともに運動量を確保した体育授業をする。
- 業間運動の実施と改善を図り、基礎体力の向上を図る。
- 定期的な発育測定を実施し、自らの健康に関心をもち、積極的に健康増進に努める児童を育てる。

(3) 特別活動の充実

- 集団活動を通して、集団の一員として自覚をもち、よりよい人間関係を構築することができる。
- 学級活動や学校行事を通して、一人一人が責任をもち、最後までがんばる児童を育てる。
- 草花の栽培や清掃活動を通して、美しい環境づくりのためにがんばる児童を育てる。

(4) 安全教育の推進

- 健康で安全な生活をしていくための資質や能力を育てる。
- 生活の中での危険を予測し、回避するなど安全な行動がとれる児童を育てる。
(全校避難訓練の定期的な実施)
- 校舎内外の整理整頓の徹底する。
(ごみゼロ運動の工夫・ごみ部屋の解消)
- 安心安全への危機管理を徹底する。
 - ・不審者対応、交通事故の防止、学校内の潜在危険の排除は全職員で取り組む。
 - ・児童のけがや事故は、躊躇なく保護者へ連絡する。
 - ・「首から上のけが」は、即救急車の意識をもって対応する。